

(特選)

☆濁り酒農継ぐ友の太き指

進

父祖の代からの農業を継ぐことになった友達を見ると太い指をしている。毎日仕事を終えた夕食時に飲む濁り酒の旨さ。上五と中七・下五の取合わせが決まっている。

・健診の妻二次検査秋寒し

けんじ

健康診断をもらった医師から二次健診を受けるように進められた。配偶者の夫としては気がかりで心配である。「秋寒し」という季語がその心情を的確に表現している。

・夕花野風に遅れて鐘の音

たか志

黄昏時の秋風が吹いている花野の情景。遠くの寺の鐘の音がきこえてくる。視覚と聴覚で捉えた優れた写生句。

(入選)

・電線に限なく留まる帰燕かな

忠男

・行く秋やあした別れの古書の山

尤子

・夫婦旅老いて苦楽の濁り酒

かつを

・リフティング競ふ子供ら秋夕焼

繁好

・ランプの灯ジビエ料理に濁り酒

良月

・松茸の茶碗蒸食ぶ旅の宿

邦夫

(佳作)

・藤袴谷戸より続く杣の道

進

・車座に回す徳利や濁り酒

たか志

・禅寺の鐘の遠音や秋深む

繁好

・松茸の値札眺めてスルーかな

邦夫

・父の背を流す今宵は濁り酒

忠男

・秋日影大樹残して売地札

尤子

・ノドグロと九谷焼猪口濁り酒

よしまさ

・道祖神寄り添ひ群るる彼岸花

邦夫

・路地裏の黄昏はやき実むらさき

一江

・登園を拒み泣く子や木の実降る

良月

・炊き立ての粒直立や今年米

たか志

・大振りの秋刀魚を買ひて家路かな

邦夫

・焼き蒸と松茸尽くし宿の膳

よしまさ